



降可能。そのあとすぐ中俣を合わせ、沢は平凡となる。

このまま終わるのかと思ったら、右俣を合わせたあとにきれいなナメが出てきた。滑谷沢との出合まで続く。最後は気分よくしめくることができた。

(記・)

[タイム] 杭甲山(11:00)→コル(11:15)→中俣出合(12:00)→滑谷沢出合(12:20)

### 杭甲沢

1985年9月22日

L1

粟子トンネル手前に車を置き、旧国道(廃道)を滑谷沢出合まで歩く。滑谷

沢を少し下って杭甲沢出合へ。出合はヤブがかかり、ともすれば見逃しやすい。

あとでわかったことだが、旧国道からここまで、踏跡がある。

9:35遡行開始。出合のヤブはすぐになくなり、沢らしい形態となり、ナメが断続的に出てくる。やがてF<sub>1</sub>。3×6mのナメ滝で、軽くパス。

F<sub>2</sub>。3mもなんなく越えると、二俣となる。水量の多い右俣に入る。

沢が左に曲がる所にF<sub>3</sub>。3mがかかり、そこより核心部となる。8個の滝が続くが、いずれも直登でき、なかなか良い遡行となる。

左より小沢が入り、F<sub>10</sub>。3mを過ぎると、水も少なくなる。やがて沢はルンゼ状となって水も濁れる。ルンゼを登りつめ、あとはヤブこぎ15分で杭甲山頂上に突き上げた。

(記・)

[タイム] 杭甲沢出合(9:35)→遡行終了(10:30)→杭甲山(10:50)

### 桂沢(下降)

1985年9月22日

L

旧国道より沢へ。入口部分がひどいヤブだったが、すぐに歩きやすくなり、沢